

# 卵子や精子だけではなく、カラダやココロも診る治療で 早期の妊娠を目指す

不妊治療を行う医療機関の医師にお話をうかがう医師インタビュー。第5回目は福岡ARTクリニックの中島章院長にお話を伺い、丁寧に対話を重ねる診療スタイルやクリニックでの取り組みについてお話をいただきました。



## 中島 章 先生 福岡ARTクリニック院長

日本産科婦人科学会 産婦人科専門医  
日本生殖医学会 生殖医療専門医

福岡ARTクリニック  
福岡県福岡市東区香椎浜3丁目2-4  
クリニックモール香椎浜 3F  
https://fukuoka-art.clinic/



2025年9月に福岡市東区に開院。一人ひとりに丁寧に寄り添った診療と、心地よく過ごすことのできる空間づくりやオンライン診療の導入など、安心して治療を受けられる環境が整う。

## クリニック開業に至った経緯と想い ～対話を重視した医療を目指して～

私は不妊治療に携わってもう20年以上になります。大学病院や国立成育医療研究センターといったアカデミアでの経験をはじめ、民間クリニックや地域医療の現場など、さまざまな施設で診療に従事してきました。

医師になって10年目ごろのことで、今も忘れられないことがあります。42歳で採卵を10回、胚移植も重ねた末に治療を終結した女性です。最後の診察で彼女は、「今まで働いて貯めた700万円を全部、不妊治療につき込みました。でも、先生のおかげで頑張れました、ありがとうございます。何の悔いもありません。」とおっしゃったのです。その時私の胸に浮かんだのは喜びでなく、「私たちは、700万円分の価値を提供できたのだろうか」という問いでした。授かるという結果を出せなかった現実を前に、医師として出来ることはあるのか？この問いが、私の診療哲学の出発点になっています。

当時から診療を行う中で感じていたことがありました。患者数が多く多忙な環境では、不妊を単に疾患としてみても、「どの検査が不足しているか」「どの治療がまだ行われていないか」というような、いわば“穴埋め式”の診療に偏りがちだということです。勿論それは、医学的に正しく、必要なことです。

一方で、「この患者さんがどんな思いでここに来られたのか」「この検査や治療を行う理由や、その必要性が十分に伝わっているか」などの部分が置き去りになってしまいます。それにより、患者さんが治療の意味を十分に理解・納得しないまま進んでしまい、患者さん自身が能動的に関われる部分が抜け落ちてしまうことがあります。私は、それが結果として妊娠という成果を遠ざける可能性があると考えています。

ただ治療を施すだけでなく、医療者からの説明や提案を行いながら、患者さんからも「どのような治療を望んでいるのか」「どこまでチャレンジしたいのか」を共有してもらい、一緒に治療を組み立てていくことが必要で、それには患者さんとの対話が欠かせないのだと考えるようになりました。

しかし、そういった診療を組織の中で実現することには限界もありました。そこで、一人ひとりと十分に対話し、患者さんのストーリーを大切にすることで、結果として妊娠という成果を重視する医療を実践できる場を自ら作りたいと考え、開業に至りました。

## カラダを診る ～治療環境を整える～

近年、「妊娠前の男女の身体(栄養)の状態は、妊娠しやすさや妊娠後の胎児の発育だけでなく、お子さんの出生後の長期に渡る心身の健康状態にまで影響を及ぼす」ということがわかってきています。お子さんを望むご夫婦には、まずこういったことを知っていただくことが重要だと思います。

私たちが頼って来ていただいている、目の前の患者さんが、こんな大切なことを知らないまま、妊娠、出産に臨むのは、医療者として不親切ではないかと思っています。そのため当院では、スライドショーを作成し、待ち時間にご覧いただくことで自然に理解が深まるような工夫をしています。

診療の中では、たとえば採血によって評価できる栄養状態についてご説明し、ご希望の方には検査を実施しています。結果については単に「正常・異常」だけではなく、データをもとに「どのような栄養の取り方が望ましいか」「現在の体調や症状とどう関連しているのか」といった点を丁寧に伝えられます。数値を“意味のある情報”として理解していただくことが、行動に繋がりと、変化のきっかけになると考えています。

また、生活習慣のヒアリングにも力を入れています。喫煙や

飲酒、運動習慣、睡眠、食事などを問診の中で丁寧に伺い、より妊娠しやすい状態を目指すための改善方法を初期段階から一緒に考えていきます。不妊治療は医療介入だけで完結するものではなく、日々の生活と密接に関わっています。だからこそ、「治療を受ける」だけでなく、「生活を見直す」意識を持っていただくことが重要です。

食事や生活習慣の改善では、できるだけ具体的に落とし込んでお話しています。例えば運動であれば「週に何回、何分程度のウォーキングを行う」「筋力トレーニングはこの程度を目安にする」といった形で、実行可能なレベルまで細分化して提案します。こうした取り組みを続けることで、体重や血糖値といった目に見える変化として現れ、達成感や自信にもつながります。患者さんが自ら変化を実感し、前向きに取り組めることが大切だと考えています。

## ココロを診る ～納得感の高い治療～

これは言わずもがなですが、不妊治療は非常にストレスの大きい医療です。さらに、仕事との両立や通院の調整といった現実的な負担も重なり、焦りから準備が整ってない状態で次のステップに進みたいという気持ちだけが先行してしまうことがあります。

特に多い例が、二人目不妊の患者さんです。一人目の育児で心身ともに疲弊しながらも、「早く次の子を」と強い焦りを感じている方が少なくありません。そうした方にはまず「今のご自身の状態で、次のお子さんを元気に育てていけそうですか？」と問いかけるようにしています。この一言をきっかけに、それまで抱えていた疲労や不安、葛藤を初めて言葉にされる方も多く、中には涙を流される方もいらっしゃいます。患者さん自身も、準備が整っていないことを無意識に感じられているのだと思います。

そういった意味で、「治療を急ぐ前に、一度ご自身の体の状態をしっかりと見てみませんか」とご提案すると、多くの方が前向きに受け入れてくださいます。中には、「すぐに治療を進めるのではなく、もう少し体づくりをしてからにしたい」と患者さんご自身の意思で判断される方もいらっしゃいます。時間が限られる中で、焦る気持ちを落ち着けることはとても勇気のいることですが、このような気持ちにも寄り添っていきたくと考えています。

カラダとココロの準備を整えることが、一辺倒な診察では拾えない原因を取り除き、治療の効果を最大化できると考えています。

## 卵子と精子を診る ～個別化治療～

クリニックでは、体外受精・顕微授精を中心とした高度生殖医療を提供しています。卵巣機能やお一人おひとりのライフ

スタイルに応じて、卵巣刺激の方法を柔軟に選択し、局所麻酔や静脈麻酔を用いた採卵を行っています。先進医療の技術や最新設備を積極的に取り入れ、治療成績の向上と安全性の両立を重視しています。

中でも胚移植は、結果に直結しやすく、技術差が現れやすい重要な工程だと考えています。当院では経膈超音波で子宮内の状態を確認しながら、着床に適した部位へ正確に移植することを重視しています。また移植時の子宮収縮をできる限り抑えるため、痛みにも配慮して移殖を行います。

さらに、当院で凍結保存した胚を他院へ移送される場合や、他院で凍結保存された胚を当院で使用される場合にも、ご相談を承っています。患者さんに安心して治療を継続していただけるよう、医療機関同士の連携体制も整えています。

## 中島先生よりメッセージ

開業してからの約半年間、今回お話したような取り組みを行い、確かな手ごたえを感じる一方で、どうしても結果が出ない患者さんがおられる現実にも改めて直面しており、常に模索を続けています。不妊治療はもちろんのこと、人生の満足度を高められることを一緒に考えていけるようなクリニックにしたいと考えています。

以前、治療を終えた患者さんからお手紙をいただいたことがあります。「これまで本当に大変でしたが、治療を終えて、ようやく自分の時間が動き出しました」と書かれており、趣味の写真も一緒に送っていただきました。

不妊治療をしている間はどうしてもそのことに意識が集中し、ためこんでしまっているものがあるのだと思います。できればそんな中でも、ご自身の好きなことや大事にしている時間も守りながら治療をしていただく、ということが必要なのではないかと感じます。

また不妊治療は、自分自身の体と向き合うこと、そして夫婦の健康について考えるところからスタートしていただきたいと思っています。

自分自身が望まれて生まれてきたこと、そしてパートナーの存在に感謝し、一緒に前を向いていけることが大切です。一人でも多くの方がそのことに気づき、治療にポジティブに取り組んでいけるよう、お手伝いできればと願っております。この治療を通じて、皆様により豊かな人生を送れますように。